

鳥取沿岸の砂浜海岸復元・港内堆砂抑制に向けた技術検討委員会

開 催 趣 旨

1. 趣旨

本県では、美しい砂浜海岸を保全・回復させるため、平成17年6月に全国初の取組として「鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドライン」を策定し、同ガイドラインに基づき国・県・市町村等の各管理者が連携・協力して、構造物の設置を要しない土砂の流れの連続性を確保する対応策（サンドリサイクルやサンドバイパス）を基本原則として、従来方式の局所最適化から脱却し、現在に至っている。

しかし、現在のサンドリサイクルやサンドバイパスは、重機や浚渫船で堆積砂を掘削し、陸上運搬又は海上運搬して、侵食箇所へ投入するという行為であり、毎年、多くの予算を費やしている上、代替する効果的な対策がない状況である。

このような状況は、負の連鎖を断ち切るため、構造物の設置による土砂の流れを制御・調整するための対応策を極力用いないこととした本ガイドラインの下においてはやむを得ないものであるが、同時に、現状で満足することなく、低コスト化や地球環境保全に配慮し、再生可能エネルギー（マイクログリッド技術）や新しい砂輸送機材を積極的に活用した「恒久的な美しい砂浜海岸復元と港内に堆砂のない港」の実現を検討しなければならないということでもある。

このため、水中サンドポンプなど新たな砂輸送機材を用いたサンドリサイクルやサンドバイパスの手法、水中サンドポンプの動力源として再生可能エネルギーを活用した技術の事例収集を行い、鳥取県の地域特性に適合した手法の導入を目的として、本委員会を設置して集中的な検討を行うものである。

2. 位置づけ

本委員会は、行政運営上の参考に資するため、県土整備部長が委員を委嘱した上で、委員の参集を求め開催するものである。

3. 委員会の規約（案）及び委員（案）

別添のとおり。

4. 委員会で行う主な検討内容

- (1) 県内におけるサンドリサイクルに関する現状と課題
- (2) 最新技術・国内外事例の検証と本県地域特性への適合性評価
- (3) 鳥取方式のサンドリサイクルシステムの実現性

5. スケジュール

今年度は、11月から翌年3月にかけて、2回を目途に委員会を開催することとし、必要に応じて翌年度以降も継続検討する。